

参考文献

- 1) アレルギー 33:344-356, 1984
- 2) アレルギーの臨床 88:21-26, 1988
- 3) アレルギーの臨床 19:854-865, 1999
- 4) アレルギー・免疫 20(8):1164-1175, 2013

| | |
|-------|-----------------------|
| 検査項目 | : 特異的シングルアレルギー (RAST) |
| | ミツバチ、スズメバチ、アシナガバチ |
| 検体量 | : 血清 各0.3 mL |
| 容器番号 | : 1 |
| 保存方法 | : 冷蔵 |
| 検査実施料 | : 各 110 点 |
| 検査判断料 | : 各 144 点 (免疫学的検査) |
| 所要日数 | : 3 ~ 5 日 |
| 基準値 | : 0.34 U A / mL 以下 |

〔 2 〕 三種病原体等である多剤耐性結核菌の取り扱いについて

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部を改正する法律が、公布され（平成27年5月21日に施行）、病原体管理規制の対象になる多剤耐性結核菌の対象範囲が改正となりました。

詳しくは以下URLをご参照下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-SeisakuJouhou-10900000-Kenkoukyoku/150407tu.pdf>

〔 3 〕 学術研究発表

2015年5月16・17日に福岡県 福岡国際会議場、マリンメッセ福岡、福岡サンパレスで行われました「第64回 日本医学検査学会」において弊社検査技師が発表を行いましたので紹介させていただきます。

【演題】

インフルエンザにおける発熱後経過時間とイムノクロマト反応の相関性

【はじめに】

イムノクロマト法を主原理とする各社インフルエンザウイルスキットは近年感度が向上し、診断の信頼性も向上されている。しかし依然、発熱直後ではウイルス量が不十分であり偽陰性が指摘される声も多い。その為、発熱当日では陽性率が低いとされている。現状では、発熱直後に来院される患者も少なくなるとウイルス量や発熱時間の関係性等の説明を行った上、希望があれば検査を行っている。今回、発熱温度、発熱後経過時間陽性率の相関性をとり、最低有効経過時間がどの位なのか検証を行った。

詳しくは、下記URLをご参照下さい。

<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/gakuzyutu2015-07.pdf>

「 4 」 KMLインフォメーション 5月～7月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行された「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用して頂ければ幸いです。

2015年 5月11日 検査内容変更のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0511.pdf>

2015年 5月14日 検査内容変更のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0514.pdf>

2015年 5月28日 COOL BIZ（クールビズ）実施のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0528.pdf>

2015年 7月 6日 検査内容変更のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0707.pdf>

2015年 7月 8日 検体検査実施料新規掲載のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0708.pdf>

■ □ = = = = =



最後までお読み頂きまして有り難う御座いました。

編集／発行 <http://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒216-0001 神奈川県川崎市宮前区野川 1432-1

= = = = = □ ■